

■清水次郎長(山本長五郎) 博徒。幕末に東海道を制し、維新時に山岡鉄舟感化で義侠的活動、講談・浪曲の主人公に。
しみずのじろちょう
・ ・ ・ ・ ・ 1820＝ 駿河国有渡郡清水湊の代々船持ち船頭の高瀬業三右衛門の三男として生まれ、直に母の弟の米屋(甲田屋)山本次郎八の養子に出されたが、

生来粗暴の性質で腕白な飢鬼大将となり、

日本外史・ ・ 1827＝ 7歳：近所の寺子屋に出されるも直に破門され、

シボム追放・ 1829＝ 9歳： 続く禅寺からも追放されるほどだったのを、

養母の兄の親戚が皆で苦役を経験させて何とか大人にした後、

高島砲術・ ・ 1834＝14歳： 養家に戻って働き始め、
滑稽+人情本 1835＝15歳： 養父が死去、その際に初めて養子だったことを知って衝撃を受けるも、裕福だった家業を相続、男の虜になった養母が財産の殆どを持ち出して駆け落ち、火の車になった家業を守って精一杯働く。

大塩平八郎乱 1837＝17歳：
適塾ホヰン・ 1838＝18歳： 家業を早く建て直そうと、米相場に手を出して失敗、焦って博奕に手を染めてのめり込み、

天保改革始・ 1841＝21歳： 博徒の仲間に入り、
天保改革弾圧 1842＝22歳： 酔いつぶれていたいたところを何者かに襲われ重傷を負うと、酒を断ち、さらに博奕仲間との闘争で相手を殺してしまったため、清水湊から逃亡、
以後、知り合い先を転々としながら、剣術を身につけ、
阿部正弘首座 1845＝25歳： 密かに帰郷、大物同志の喧嘩を仲裁して一躍俠名を挙げ、
孝明天皇・ ・ 1846＝26歳： 鞭叩きの刑での我慢強さが感嘆され、若輩ながらその名は不動のものとなる。仲間や実父の勧めで結婚。
・ ・ ・ ・ ・ 1847＝27歳： 以後、多くの子分を従えるようになるとともに、その資金稼ぎの縄張り争いのため、尾張八尾ヶ獄の久六・甲斐黒駒の勝蔵・伊勢の安濃徳らと度々抗争、

ペリー来航・ 1853＝33歳：

松下村塾・ ・ 1856＝36歳： 役人の振る舞いに怒って殺したため、以後捕吏に追われる身となるが、

五ヶ国条約・ 1858＝38歳： 一時清水に戻った際に妻が死去、

桜田門外変・ 1860＝40歳：

薩摩藩士密航 1865＝45歳：
薩長同盟・ ・ 1866＝46歳： ついに伊勢笠殿山で甲斐の黒駒勝蔵に勝ち、東海道の縄張りを確保。その後も、抗争を続けるうち、〈明治維新〉の志士たちからその力を頼りにされるようになり、
明治維新・ ・ 1868＝48歳： 倒幕のため東上した東海道総督府より、道中探索方を命ぜられ、帯刀を許された。徳川家の駿府移転により、山岡鉄舟の知遇を受ける。幕府の脱出兵が咸臨丸で清水湊に停泊、船内残留者が官軍の兵艦に襲われ、死体が海中に投じられた際、これを收容、向島の地に埋葬、山岡鉄舟の書“壮士墓”の碑を建てる。

戊辰戦争終・ 1869＝49歳： 二人目の妻が殺される。静岡藩の市中取締に任じられるなど、
廃藩置県・ ・ 1871＝51歳： 勝蔵が斬首となったのとは対照的な待遇を受け、
明治6年政変 1873＝53歳： 鉄舟が正業として開墾事業に当るように指示したのを受け、進んで囚人を使役することを嘆願、
佐賀の乱・ ・ 1874＝54歳： 清水で回漕業(静隆社)設立に奔走。
初の民間工場 1875＝55歳： 清水で回漕業(静隆社)設立に奔走。
三つの反乱 1876＝56歳： 英語塾を開講。
西南戦争・ ・ 1877＝57歳： 囚人が脱走後は、自ら鋏を振って村民とともに、富士の裾野の開墾に従事し、明治政府の施策に協力、
琉球処分・ ・ 1879＝59歳： 石油採掘の手助けをする。

明治14年政変 1881＝61歳：

岩倉具視没・ 1883＝63歳： この年まで、開墾を続ける。
秩父事件・ ・ 1884＝64歳： 博徒の一世検挙で懲役7年、罰金400円に処せられるも、
内閣発足・ ・ 1885＝65歳： 台風による監獄倒壊で大怪我して特赦される一方、鉄舟の配慮で「東海遊侠伝」が書かれて話題となり、さらに汽船宿兼料亭(末広)の営業を与えられ、

以後3人目の妻と悠々自適の生活を送り、

帝国憲法発布 1889＝69歳：

大本教・ ・ 1892＝72歳：
郡司千島探検 1893＝73歳： 没した。

竹内勇太郎「清水次郎長」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、